

成田山奉納土俵入り

第48代横綱	大 鵬	北海道	二所ノ関	1961年 9月	21歳	1971年 5月	30歳	58場所	大本堂	地鎮祭
第49代横綱	栃ノ海	青森県	春日野	1964年 1月	25歳	1966年 11月	28歳	17場所	大本堂	地鎮祭
第50代横綱	佐田の山	長崎県	出羽海	1965年 1月	26歳	1968年 3月	30歳	19場所		
第51代横綱	玉の海	愛知県	片男波	1970年 1月	25歳	1971年 9月	27歳	10場所		
第52代横綱	北の富士	北海道	九 重	1970年 1月	27歳	1974年 7月	32歳	27場所	光輪郭	地鎮祭 1971年
第53代横綱	琴 桜	鳥取県	佐 渡ヶ 嶽	1973年 1月	32歳	1974年 5月	33歳	8場所		
第54代横綱	輪 島	石川県	花 籠	1973年 5月	25歳	1981年 3月	33歳	47場所	平和の大塔地鎮祭	1981年
第55代横綱	北の湖	北海道	三保ヶ関	1974年 7月	21歳	1985年 1月	31歳	63場所	同 上	
第56代横綱	若乃花Ⅱ	青森県	二子山	1978年 5月	25歳	1983年 1月	29歳	28場所	同 上	
第57代横綱	三重ノ海	三重県	出羽海	1979年 7月	31歳	1980年 11月	32歳	8場所		
第58代横綱	千代の富士	北海道	九 重	1981年 5月	26歳	1991年 5月	35歳	59場所		
第59代横綱	隆の里	青森県	二子山	1983年 7月	30歳	1986年 1月	33歳	15場所		
第60代横綱	双羽黒	三重県	立 浪	1986年 7月	22歳	1987年 11月	24歳	8場所		
第61代横綱	北勝海	北海道	九 重	1987年 5月	23歳	1992年 3月	28歳	29場所		
第62代横綱	大乃国	北海道	放 駒	1987年 9月	24歳	1991年 7月	28歳	23場所		
第63代横綱	旭富士	青森県	大 島	1990年 7月	30歳	1992年 1月	31歳	9場所		
第64代横綱	曙	ハワイ	東 関	1993年 1月	23歳	2001年 1月	31歳	48場所		
第65代横綱	貴乃花	東京都	二子山	1994年 11月	22歳	2003年 1月	30歳	49場所		
第66代横綱	Ⅲ若乃花	東京都	二子山	1998年 5月	27歳	2000年 3月	29歳	11場所		
第67代横綱	武蔵丸	ハワイ	武蔵川	1999年 5月	28歳	2003年 11月	32歳	26場所		
第68代横綱	朝青龍	モンゴル	高 砂	2003年 1月	22歳	2010年 1月	29歳	42場所	総 門	地鎮祭 2003年

赤字の横綱が成田山で奉納土俵入りを行った。

奉納土俵入りが披露されるのは、昭和56年に大塔地鎮祭の時、輪島、北の湖、若の花Ⅱ(二代目)の三横綱が行って以来、25年ぶりだそうです。

宮城野の代々

- 代目の太字は、部屋持ち親方

代目	引退時しこ名	最高位	所属部屋	襲名期間	備考
初代	宮城野錦之助	関脇	佐野山部屋	---	
2代	荒馬大五郎	関脇	桐山-小野川部屋	1832年3月-1849年7月(死去)	二枚鑑札 、年寄名・宮城野馬五郎
3代	御所車清藏	---	---	1849年7月-1866年?	
4代	宮城野馬五郎 (1826年生)	小結	宮城野部屋	1866年11月-1889年8月 (死去)	二枚鑑札
5代	鳳凰馬五郎	大関	宮城野-錦戸- 宮城野	1894年7月-1907年5月(死去)	二枚鑑札、年寄名・宮城野馬五郎
6代	五所車菊太郎	前8	宮城野-勝ノ浦- 宮城野部屋	1909年?-1916年1月(廃業)	二枚鑑札、のち 世話人 に転向
7代	鳳谷五郎	横綱	宮城野-勝ノ浦- 宮城野部屋	1916年5月-1956年11月(死去)	二枚鑑札
8代	吉葉山潤之輔	横綱	高島部屋	1960年1月-1977年11月(死去)	
9代	廣川泰三	小結	高島-吉葉山- 宮城野部屋	1977年11月-1989年6月(死去)	
10代	竹葉山真邦	前13	宮城野部屋	1989年6月-2004年8月	15代 熊ヶ谷 に名跡変更
11代	金親和憲	十2	北の湖部屋	2004年8月-2010年12月	15代 熊ヶ谷 と名跡交換
12代	竹葉山真邦	前13	宮城野部屋	2010年12月-	10代の再襲名

本名は宮城野馬五郎（旧姓近藤）。伊勢国三重郡（現在の三重県四日市市）出身、身長体重不明。最高位は東小結。

1844年1月に宮城野部屋に入門し、一時は八戸藩の抱えになるほどに期待をされた。しかしなかなか番付が上がらず、入幕を果たしたのは1858年11月で既に数え33歳であった。師匠の元の四股名の荒馬大五郎を名乗り幕内を務めたが、引き分け・預かりが多く番付は小康状態であった。1866年に二枚鑑札となり、その後1868年7月に数え43歳で小結に昇進している。1869年4月限りに力士を引退。親方稼業に専

念した。